

令和4年  
5月27日

# 病害虫発生予報 6月号

茨城県病害虫防除所

薬剤散布時には周囲への飛散防止に努めましょう。

～令和4年度茨城県農薬危害防止運動が始まります（6/15～9/14）～

## < 目次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

水稻：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）、ニカメイガ	1
【防除所レポート】イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測	2
○水稻のいもち病の防除について	2
ナシ：黒星病、ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）	3
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測	4
果樹共通：チャバネアオカメムシ	4
半促成ピーマン：アザミウマ類、斑点病	5
夏ネギ：さび病、べと病、黒斑病（葉枯病を含む）	6
【その他の病害虫】	
水稻、ブドウ、半促成ピーマン、夏ネギ	7
○サツマイモ基腐病の防除対策（定植期～生育初期）	8
【防除所レポート】小麦の赤かび病の発生状況と今後の対策について	9

### II. 今月の気象予報 . . . . . 10

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの「農薬登録情報提供システム」（<https://pesticide.maff.go.jp/>）で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所   Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>

フェロモントラップデータ随時更新中



# I. 今月の予報

## 【注意すべき病害虫】

水 稲
-----

### 1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県西地域、 県南の一部地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、県西・県南地域の小麦圃場におけるヒメトビウンカの10回振りすくい取り虫数は、本年を含む過去7年中2番目に多い。
- ② 2～3月に採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県西・県南地域14地点中4地点で、5%以上\*の高い値であった。  
※農業研究所作成のマニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する値。  
(令和4年3月23日発表 令和3年度病害虫発生予察注意報第3号 参照)
- ③ 5月27日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年並と予測される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 近年、本病の発生が認められた地域で、ヒメトビウンカを対象とした育苗箱施用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用をしなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とした本田防除を行う。
- ② 近年、ヒメトビウンカに対する防除適期が早まっているので、次ページの防除所レポートの本年の防除適期をよく確認し、適期に防除を行う。
- ③ 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ④ 5月中下旬に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率について、今後調査を行い、6月中旬頃に病害虫防除所ホームページに情報を掲載する予定なので参考にする。  
(令和4年5月27日発表 病害虫発生予察注意報第1号 参照)

### 2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第5半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、龍ヶ崎市で平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年発生が目立つ水田では、6月上旬に第一世代幼虫を対象とした薬剤防除を実施する。

## 防除所レポート [イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）の防除適期の予測]

イネ縞葉枯病対策としてのヒメトビウンカの本田散布の防除適期は、ヒメトビウンカ第二世代幼虫の発生開始期から増加期（産卵最盛日から7日後までの間）である。

5月27日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は平年並と予測される（表）。

近年、ヒメトビウンカに対する防除適期が早まっているので、表の今年の防除適期をよく確認し、適期に防除を行う。（令和3年9月30日発表 病害虫発生予報10月号 p6 防除所レポート参照）

表 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛日および予測防除適期\*

	アメダス地点	古河	下館	下妻	つくば	土浦
予測産卵最盛日	本年	6/10	6/15	6/14	6/16	6/14
	平年値	6/10	6/14	6/13	6/14	6/13
<b>予測防除適期</b>	<b>本年</b>	<b>6/10-17</b>	<b>6/15-22</b>	<b>6/14-21</b>	<b>6/16-23</b>	<b>6/14-21</b>

※今後の気温が平年並に推移した場合の有効積算温度から予測した産卵最盛日（5月27日現在）。防除適期は、予測した産卵最盛期から7日後までの間。

## 水稻のいもち病の防除について

### [現在の状況]

5月下旬現在、調査圃場の置苗での本病の発生は認めていない。

### [発生好適条件]

気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間濡れるような条件のとき、一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

### [防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬頃から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

※ 防除所 HP にて6月より BLASTAM(アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム) による葉いもちの感染好適日の出現状況を随時掲載する予定ですのでご参照ください。

# ナシ

## 1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病果率（本年値 1.0%、平年値 0.3%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 35%、平年値 31%）は平年並である。
- ② 5月下旬現在、発病葉率（本年値 0.8%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 30%、平年値 19%）ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 一部圃場で多発生を認めているので注意する。
- ② 効果的に防除するためには、二次伝染源の除去が重要であり、発病した葉および果実は見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ④ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

## 2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、第一世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から、平年並～やや早いと予測される。
- ② 5月下旬現在、かすみがうら市、筑西市（旧下館市）で平年より多く、笠間市、土浦市で平年よりやや多く、小美玉市で平年並、筑西市（旧関城町）で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後、第二世代幼虫が発生するため、次ページの防除所レポートを参考に適期防除に努める。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

## 防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は、第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後である。
- ② 各地点の第一世代成虫の誘殺最盛期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測し、平年並～やや早い。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市(旧下館市)については、今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測防除適期 <sup>1)</sup>		
笠間市	6月20日	～	6月24日
小美玉市	6月22日	～	6月27日
石岡市	6月12日	～	6月15日
かすみがうら市	6月13日	～	6月16日
土浦市	6月18日	～	6月21日
筑西市(旧下館市)	6月14日	～	6月18日
筑西市(旧関城町)	6月14日	～	6月18日

1) 第一世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(5月27日現在)。

## 果樹共通

### 1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 本年2月中旬に県内42地点で行ったチャバネアオカメムシ成虫の越冬調査における、越冬数は、平年並～やや多く(本年値2.7頭、平年値2.2頭)、越冬地点率は平年よりやや高い(本年値67%、平年値40%)。
- ② 5月下旬現在、笠間市のサクラ果実におけるチャバネアオカメムシの生息数は平年より多い。
- ③ 5月下旬現在、県内ナシ調査圃場の被害果率(本年値0.03%、平年値0.01%)は平年よりやや高く、発生地点率(本年値10%、平年値1%)は平年より高い。
- ④ 5月第5半旬現在、かすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯のチャバネアオカメムシ誘殺数は、平年より多く、誘殺時期はやや早い。

(令和4年5月27日発表 病害虫発生予察注意報第2号 参照)

[防除上注意すべき事項]

- ① 笠間市におけるカメムシ類に吸汁されたサクラ果実の割合は5月下旬で87%(平年64%)となっており、今後、餌を求めて果樹園へ飛来する可能性があるため注意する。
- ② 夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、果樹園への飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ③ 多目的防災網(6mm目または9mmクロス目等)はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。

## 半促成ピーマン

### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、寄生花率（本年値 78.0%、平年値 69.9%）は平年並で、一花あたりの寄生虫数（本年値 16.1 頭、10 年平均値 8.1 頭）は平年より多い。
- ② 5月下旬現在、被害果率（本年値 14.0%、平年値 5.2%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 75%、平年値 42%）は平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルスを媒介するので発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

### 2. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度※（本年値 4.3、平年値 2.7）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 75%、平年値 27%）は平年より高い。  
※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

## 夏ネギ

### 1. さび病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度\*（本年値 9.4、平年値 2.5）は平年より高く、発生地点率（本年値 75%、平年値 35%）は平年よりやや高い～高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。  
※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本病は気温が 25℃以下で高湿度が続くと発病しやすい。圃場をよく観察し、発病が認められたら初期防除を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

### 2. べと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度\*（本年値 4.8、平年値 1.2）は平年より高く、発生地点率（本年値 38%、平年値 21%）は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。  
※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 降雨が多いと発生が多くなる。圃場をよく観察し、発病が認められたら初期防除を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(夏ネギ 続き)

### 3. 黒斑病（葉枯病を含む）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度<sup>\*</sup>（本年値 0.8、平年値 0.8）は平年並、発生地点率（本年値 50%、平年値 26%）は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 肥料切れや多肥は発生を助長するため、生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

#### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	イネミズゾウムシ		
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
ピーマン 半促成	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや多い	5月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
	うどんこ病	発生量：やや少ない	5月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。
夏ネギ	軟腐病	発生量：やや多い	5月下旬現在、平年よりやや多い発生である。一部圃場で発生が認められている。
	ネギハモグリバエ	発生量：平年並	5月下旬現在、平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並 ～やや少ない	5月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。

## サツマイモ基腐病の防除対策（定植期～生育初期）

サツマイモが本病に感染・発病すると、栽培中、地上部の茎葉が枯死し、地下部の塊根（イモ）は腐敗していきます。また、周囲の健全な株にも病原菌が伝染するため、本病が圃場内にまん延し、大きな減収を招きます。

育苗から生育期、収穫から貯蔵まで年間を通して被害が拡大するおそれがあるので、侵入防止と早期発見・早期対策に努めましょう。

### 【侵入防止のために】

- ・ 来歴が不明な種イモや苗は絶対に持ち込まない。
- ・ 採苗に使うハサミはこまめに洗浄、消毒しながら、苗は地際から5 cm以上の位置で切り取り、採苗後は速やかに苗消毒を行う。
- ・ 切り苗を購入するときは、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。

### 【侵入に備えた準備】

- ・ 排水の悪い圃場は発病しやすいため、明きょ設置や耕盤破碎、枕畦の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底しておく。
- ・ 他の圃場への拡散を防ぐため、作業する圃場ごとに農機具や長靴等についた土をよく落とし、きれいに洗浄する。

### 【植え付け後の早期発見のために】

- ・ 万が一の発生に備え、作付圃場ごとに植えた苗を追跡できるよう、苗の履歴（以下の①～③）を記録する。
  - ① 苗床の番号、②採苗日、③植付日（切苗の場合は購入日、店舗名）
- ・ 発生を拡大させないためには早期発見が重要である。茎葉が繁茂すると発病株の発見が難しくなるため、茎葉が地上部を覆うまでの期間（発病株を見つけやすい時期）は、特に以下の観察を徹底する。
  - ① 葉の変色（赤変・黄変）
  - ② 株元の茎の黒変

※本病が疑われる症状を見つけた場合は、抜き取ってしまわずに、まず直ちに各地域の農業改良普及センターまで連絡してください。



## II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月28日から6月27日)

気象庁(5月26日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 5月28日(土曜日)から6月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<2週目の予報> 6月4日(土曜日)から6月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 6月11日(土曜日)から6月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。